

「矢道ハリヨ調査」の計画及び取組

■「ハリヨ」について

ハリヨは元来北方系の魚類であり、湧水が豊かである大垣市を含む岐阜県西美濃地方と滋賀県東北部に局所的に分布している淡水魚である。本種は特に 1970 年代頃から減少の一途をたどっており、環境省絶滅危惧種や県天然記念物などに選定され、岐阜県の一生息地域においては国指定天然記念物に指定されている淡水魚である。また、大垣市の“市の魚”に位置付けられており、「大垣市エコ水都環境プラン」計画に基づき保護が進められているとともに、市民活動による保全も継続的に実施されている。一方で、学術的な価値も高く、ほぼ毎年学術雑誌などに研究発表されており、科学的根拠に基づいた保全事業に活用されている。

■調査実施計画

(1) 現地調査（年 5 回程度及び随時観察）

矢道町ハリヨ池に隔月の頻度で行き、湧水状況、水位、底質状況（アオミドロなど植生を含む）など現況環境を記録し、ハリヨの生息状況を観察する。なお、市教育委員会による毎月の現地写真撮影の協力を得て、毎月の生息地の状況を密に把握し、現地の実態を通年的に継続実施する。また随時、地元自治会と意見交換し、生息地環境の保全に向けて地域連携を促進する。

(2) 調査解析（データ解析及び資料収集）

水温や水位（湧水量）の変動を把握し、水温分布や底質の粒度分布によってハリヨの生息地点や営巣地点との関係から、営巣地の選択性を統計解析する。

■取組内容

(1) ハリヨの生育状況調査

矢道町ハリヨ池のみならず市内西之川町生息地（県指定地）や曾根町生息地などにおいて、ハリヨ生息実態を調査する。生息状況（成魚群の位置、体長測定、繁殖形

質)や営巣などを記録する。さらに池田町中川ハリヨ(県指定地)において、湧水状況やハリヨ生息を記録する。

(2) 繁殖参加個体、営巣を中心にハリヨの繁殖実態調査

繁殖状況の把握のため採集捕獲を行い、繁殖参加個体の計数、営巣の計数、オスの婚姻色のスコア別の個体数およびメスの抱卵状況スコア別の個体数の計数。池内における営巣地の地点場所を図面上でプロットし、営巣地の適地を調査する。さらに通年の調査によって繁殖期を特定し、同地域におけるハリヨの繁殖状況を生態学的に把握する。

(3) 矢道ハリヨ池の環境調査(水温、底質、流速、湧水など、特に営巣環境の物理的条件)

水温分布、水深分布、底質の粒度分布、水位、共生種、外来種など環境条件と、ハリヨの生息地点や営巣地点との関係を解析する。

以上の調査結果をもって、効果的な保全活動の活用に資するものとする。

(4) 市行政や住民との連携

上記のハリヨ調査の結果を単に知見蓄積するのみならず、その成果を地元自治会などに還元周知し、その保全の意義を一般市民に対して理解される機会を設ける。これまで数年にわたり秋期に小学生などを含めた学習会を、現地の池岸と地元公民館で矢道ハリヨ等保存会と市教育委員会の主催で行なっており、これをより広く発展的に継続する。また、住民連携活動による環境整備として、営巣阻害となるアオミドロの除去や外来種駆除などについて、より効果的な管理手法を検討する。すなわち、地域環境の保全に向けて、科学的根拠を提供する学とともに市行政と住民連携によって解決する仕組みの構築を育成していく。